

教会学校奉仕者ブックレット

「あなたの信仰が わたしを**生**かす」

～豊かなクラス運営のために～



9月は教会学校月間

発行：日本バプテスト連盟宣教部 教会教育室
〒336-0017
さいたま市南区南浦和1-2-4
発行日：2009年7月22日



名前

目次

メモ

はじめに	1
共同学習	2
教会学校による教会の形成	3
牧師のリーダーシップ	4
リーダーの養成	5
互いに聞きあう姿勢で	6
『聖書教育』を良く用いて	7
「生の全領域」に関わる視点を培う	8
各クラスが目指すべきもの	9
クラスの実際	10
謙虚に柔軟にあることの喜び	11
アウトリーチ（働き）	12
アウトリーチ（言葉の源流）	13
アウトリーチ（教会の牧会に不可欠な活動）	14
アウトリーチ（単なる事務整理ではなく）	15
アウトリーチ（教会学校クラス名簿の扱いと理解）	16
祈りの友	17
メモ	21





みなさんの教会では「教会学校」をアピールする月間や週間がありますか？ 連盟では夏休みが終わる9月を「教会学校月間」とアピールしています。4月から半年、「今年はこれをやりたい！」と思ってスタートした歩みを、振り返ってみるよい時期です。

メンバーもリーダーも、ときどき自分を振り返ることは大切です。行為と配慮を相手に届けるためには、「自己流」で良しとしないことです。同労者がお互いに励まし合って刺激しあいつつ、教会学校の可能性を大きく広げていきましょう。

諸教会から「奉仕者会やリーダー会で学びができる簡単なブックレットがほしい」という要望をいただき、この冊子を作成しました。教会学校活動のために活用してくだされば幸いです。

2009年7月

日本バプテスト連盟宣教部
教会教育室室長 榎本 謙

共同学習

日本バプテスト連盟が推進してきた教会学校は、その初期から「全年齢層の教会学校」、特に成人科による学びを強調してきました。「教会学校」という名称から「学ぶ対象は子どもたち」と考えるのは誤りです。まず、成人こそ学び養われるべきだという姿勢が大切です。バプテストの教会学校が大切にしてきた「共同学習するクラス」には、教える人が教わり、学ぶ人が伝えるという関係があります。

リーダーが一方向的に話すだけのクラスになっていませんか？



祈りの友(春)

年 月 日



祈りの友(冬)

年 月 日

教会学校による教会の形成

教会学校の奉仕の担い手は、信徒です。信徒による良い準備と責任がこめられた教会学校リーダーの働きは、「会衆教会」のありようを活性化させ、むしろ一致した姿勢で教会の形成に向かう活力となるでしょう。教会に集められた奉仕者が、生き活きと用いられて教会を建て上げていくというビジョンをもっていたいですね。

教会学校は教会の中でどんな役割を果たしていますか？

牧師のリーダーシップ

「教会学校は信徒活動である」ということは、牧師の参与を必要としないとか、牧師が無関心であってよいという意味ではありません。むしろ、「教会学校」の運営には牧師の理解と励ましが必要です。牧師が教会学校の聖書箇所を聖書研究し、教会の課題も汲み取りながら奉仕者会や祈禱会などで伝えることは、リーダーの学びや準備に大きな助けとなるでしょう。

牧師が「教会学校」についてどのように考えているか、話を聞いてみては？

クラスメンバーやクラス以外の友を覚えて祈ったことを書いておきましょう。お便りを出したことや応答なども。



祈りの友(秋)

年 月 日

アウトリーチ（教会学校クラス名簿の扱いと理解）

そこにあるひとつの名前は、自分のクラスに主なる神が預けてくれた存在をあらわしています。単なる数字として理解して、数の増減に関心を示すのではなく、交わりが与えられた相手として受け止め、期待して祈り続けたいと思います。「守秘義務」の問題を含めて、個人の諸事情や立たされている状況に心を傾け、想像力を働かせる細やかな牧会配慮が大事だと思います。

毎週礼拝に来ていた来会のAさんが、ぱったり来なくなりました。誰も事情がわかりません。親しく話していたあなたはどんなアウトリーチをしますか。

リーダーの養成

「リーダーのなり手がいない」と嘆いていませんか？ 奉仕者を励まし育てることから、すでに教会学校の働きは始まっています。教師や牧師が「協力者」を傍らに置いてクラスを担当し、クラスをリードする仕方をみせながら「協力者」に引き継ぐ方法もあります。リーダーは放りだされたままでは行き詰まります。つねに牧師や奉仕者チームによる励ましが必要です。

教会学校奉仕に行き詰ったことはありませんか？
その時期を越えたきっかけは何だったでしょうか。

互いに聞きあう姿勢で

リーダーは、自分の発題が「小説教」にならないような配慮が必要です。ディスカッション形式を大事にしつつ、しかも持論を戦わせることにならない工夫が求められます。教会学校は、他者の意見や感想に謙虚に耳を傾ける姿勢そのものをつくる場でもあるのです。教会学校は礼拝式とは違う性質を持っていますから、この性質を多いに生かしましょう。

礼拝と教会学校をどんな風に位置付けていますか？（教会は？ あなた自身は？）

アウトリーチ（単なる事務整理ではなく）

アウトリーチを即「書記活動」と考えてしまうかもしれませんが、これは、ほんの一面にすぎません。アウトリーチ活動は、出席記録や名簿整理を指すだけではありません。もちろん、このことは大切ですが、どんなにファイルがきれいに整頓されていても、活用されていないければ無意味です。本来の「書記活動」は、「記録活動」とはちがう、という言い方も出来るかもしれません。まさに、ひとりに手を伸ばして触れた「イエスの牧会活動」の映しであることを意識しましょう。

単なる「記録活動」にとどまらない「牧会」としての「書記活動」になるためにどんなことが大切でしょうか。

アウトリーチ（教会の牧会に不可欠な活動）

教会でよくいわれる「ひとりを大事にする」とは、どうすることでしょうか。まず、来会者の「顔と名前を記憶する」ための工夫と配慮をしましょう。主日礼拝中の配慮と礼拝後の声かけや歓談、書記・記録活動の充実、手紙や電話、Eメールによる連絡、祈り会・教会学校・家庭集会での交わり、などに配慮し、自分自身もそこに参与できるように生活を整えていきましょう。

教会の来会者名簿には何人の名前があるでしょうか。それらの名前を大切にするために、様々なプログラムに参加するように努めていますか？

『聖書教育』を良く用いて

クラスの準備は、リーダーがまず聖書箇所を熟読して自分自身に語られたメッセージを深く味わいましょう。それから『聖書教育』の「聖書の学び」や「子どもメッセージ」を一読し、他の科の内容にも目を通しながら、クラスでディスカッションするテーマを絞り込むために、活用していただきたいです。

聖書を開く前に『聖書教育』を開いていませんか？
クラスの準備方法について分かちあってみましょう。

「生の全領域」に関わる視点を培う

「教会学校の目的」の中に「生の全領域において」という表現がありますが、これは、神が治める場への信頼の広さを示しています。私たちが生きる現場、生活の隅々まで、例外なく主が働いておられるという、福音の確かさを意味しているのです。社会的・歴史的視点を持って聖書解釈することは、今日ますます重要になってきています。

あなたにとって「生の全領域」とはどういうことを意味しますか？

アウトリーチ（言葉の源流）

「イエスが手を差し伸べて(リーチアウト)その人に触れ」(マタイ8:3)。このイエスのわざは、愛するがゆえにその人を追い求め、その人の抱えている痛みに触れる神の出来事をあらわしています。しかも、この主イエスの行為が、誰かの犠牲の上に安寧を求める社会をくつがえすことになったことが聖書からわかります。したがって、アウトリーチ活動の原点は、痛んでいる(傷つけられている)人の求めに届く行為なのであって、こちらの都合や主観で踏み込んでいくような活動であってはなりません。

自分ではよかれと思ってしたことが、相手を傷つけてしまった経験はありませんか？

アウトリーチ（働き）

「アウトリーチ (Outreach)」とは、英語で「手を伸ばす」という意味から派生した造語です。福祉などの分野における地域社会への奉仕活動や公共機関の現場出張サービスなどの意味でも使われますが、教会ではこの言葉を次のように理解して大事に考えています。（アウトリーチとは）「一人ひとりのところに、福音が行き届き、配慮の手が伸ばされ、救いの出来事が起こされていくためのすべての営み」（「聖書教育」編集部・田口昭典編『アウトリーチ ハンドブック』ヨルダン社1990年）。

あなたの教会の中で、アウトリーチを必要とする部分（人）はどこ（だれ）だと思いますか。

各クラスが目指すべきもの

実際に教会学校クラスを展開するにあたって、聖書知識の紹介やそれらに関する話題提供は、必要最低限にとどめる配慮と注意が必要でしょう。初めて来会した人、来会し始めた人も同じレベルで話題に加わることができる場こそが、原則的に望ましいクラスと言えましょう。

クラスに来会者はいますか？ 来会者に開かれたクラスとなるためにどんな工夫、配慮ができるでしょうか。

クラスの実際

クラス進行にあたってひとつの秘訣を紹介します。リーダーはその日の聖書箇所を熟読し(その上で『聖書教育』もひと通りお目通しいただいて！)、自分なりにメッセージを聴き取ったものから、話題にしたい事柄を絞り込みます。その上で、それを「説明する」のではなく、受け止めたメッセージをめぐって心にわいてきた「問い」を大切にします。そして、「メンバーはどんな意見を持つだろうか」と思いながらクラスに臨んでみましょう。

リーダー以外に書記のような奉仕者がいる場合、その人との役割分担はどうしていますか？
クラスメンバーにどのように助けられていますか？

謙虚に柔軟にあることの喜び

「学ぶ」とは、自分が豊かに「変えられる」ことです。長年の経験というものは年輪の深さを持つと同時に、他方で「固さ」を持ちがちでもあります。持論や自分が理解している型から抜け出そうとしない傾向が強いかもしれないという反省を持って臨みましょう。「今日始めて読むかのように聖書を開く」ときに、新鮮な驚きを得るのです。

あなたが教会学校奉仕を通して「変えられた」経験がありますか？